

赤いレンガと神戸っ子

明日の元町を創ろう

水谷 頴介 〈都市計画家〉

馬島 秀平 〈大丸神戸店〉

永田良一郎 〈永田良介商店〉

川瀬 徹男 〈元町時計店〉

小林 新二 〈元町バザー〉

安達 昭三 〈フナキヤ〉

★神戸には赤レンガがピッタリ

小林 今度、元町一番街でレンガの歩道をつくることになったのですが、まず水谷先生に相談をしました。素人考えよりも、ひとつ先生の創作のような形で一切をお任せしてやってもらおうということにしたわけです。

水谷 大分前から元町とかトアロードというところはレンガの道であつた方がいいのじゃないか、今どき流行の安物じゃなくて、本物がいいのじゃないかしら、というようなことを色んなところで、色んな機会にお話してきたと思うのですけれども、それを本当に元町でひとつやろうという話になったのですね。

永田 昔は居留地の歩道は全部レンガでねえ……。それもホンマのレンガやね。雨が降ってもすぐ吸いこみよるので、色が非常に綺麗なわけです。ただ普通のレンガの欠点は磨減しやすいことですね。だから、あの感じで水排けのよいものができれば理想だと思ふんですがね。

水谷 今までのように薄っぺらな流行を追いかけるのじゃなくて、やっぱり本物で長持ちをするものを出てきたということは非常に大きなことだと思ふのですね。

馬島 神戸には山あり海ありという背景や地形を生かした本物の美しさというものがあるんですが、それにはレンガが合うんでしょうねえ。

水谷 神戸の場合は、何とかかんとかいつても出来てきたまちの過程からいって、洋風が似合うというか、レンガをもつてくるとピッタリくるんですね。京都は黒い瓦であつて欲しいけれども、神戸は赤いレンガというものを基調にしてつくつても良いんじゃないかと思ひます。

小林 レンガ屋敷もようけ残つてますね。

永田 レンガの道が出来たら、アーケードをとつてやろうかと思つてゐるんです。

水谷 また、レンガ道が出来たら自転車遊びにくる人も出てくるでしょうねえ。

安達 ショッピングバスというものが遠くの団地から買物客を運んでいるように、元町のストリート



水谷 顕介さん

ちですねえ。だから、ある程度のバタ臭さというのがいつも必要だと思うし、それが神戸のファッションを生み出し、あるいは、色んな神戸らしさというものを生んできた一つの根元やろと思う。それにマッチしたのはやはりレンガですね。

小林 レンガを扱うというのは、今までの商店街の行き方からすると余り例がないですね。今までは、何でも明るいのとか、キラキラしたものとかでしょう。私は逆だと思っていますね。

水谷 それにレンガだと掃除一つにしても、極端に言えば放っておいてもいけるんですよ。

★神戸独自の百貨店を

馬島 この秋には私どもの増築も完成するのですが、コミュニティ

のなかに馬車を走らせて、乗りたいところとび降りなさい、降りたいところとび降りなさいとそういう風なことがあっても良いですね。また、神戸の市電は日本一だという評判があったんだから特定路線だけでも何とか……。

水谷 復元せなアカンですね。

永田 大丸から三越までね。

水谷 栄町はやっぱり残すべきやったねえ……。

永田 神戸というまちは、今、水谷先生がおっしゃったように、どつちかというところ、洋風の似合うま



馬島 秀平さん

馬島 この秋には私どもの増築も完成するのですが、コミュニティの場といったものを基本理念にしてやっており、ムードとしては、憩いの場をつくることを目指しておるわけです。それも限られた店内に特にコミュニティ広場という場所をつくるというのじゃなくて、全体のムードが語らいの場とて、全体のか、ゆったりとした感じのような、一階全体をベッコスクエアのような雰囲気のものにしたいと思っています。

水谷 一階も全部広場式にしたらどうですか。そこに、レンガをバ

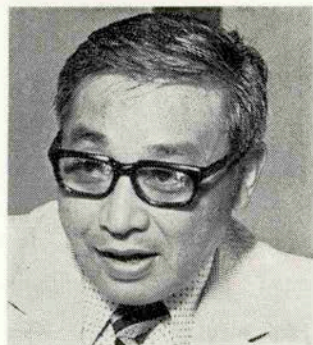
チンと敷いてね。屋根がなかったら外と変らないような空間にした方がズツと良いと思いますね。一階に全部レンガを敷いてもらって、世界の居留地というところト語弊があるけれど、世界のレンガのまちといったものをつくってもらったら面白いと思うんですけれどねえ。

永田 百貨店の一階に入ったら紳士もんと婦人もんとネクタイを売っておるといふイメージを破ったらと思いますね。

水谷 アメリカで百貨店よりもジョッピングセンターが色々出てきたというのは、人口が効外に移ったことも確かにありますが、やっぱり、グランドフロアの使い方が完全にコミュニティ的だからです。たとえば、そこにスケートリンクをつくっていると、レストランが並んでいるとか。

馬島 それと、もうチョット神戸のローカルな百貨店にすべきだと思えますね。全国の特産品ばかりを扱っておりながら地元のものがない。神戸の知られざる名物というものはまったくないわけですよ。

永田 これは一つのアイディアなんです。一階をコミュニティの広場にして、そこでテレフォンサービスをしただけと思うんです。電話をようけ置いておいて、



永田 良一郎さん

馬島 だから神戸だけのものが絶対に必要なんですよ。

水谷 元町でレンガを敷いたら、今度は阪神電車から枕木の古いのをもらいます。それをバートと切ってフラワーボックスをつくって、ランタンの下に置いたらものすごく綺麗だと思いますね。

★レンガ道のプロムナード

安達 元町の特徴はメリケン波止場をひかえていることですね。

小林 メリケン波止場へは絶対にレンガ道をつながないアカンと思うねえ。

永田 元町駅を降りたら大丸へ行き、元町へ行き、それからメリケン波止場へも行ける。そこまでは総てレンガの道を歩けるのだと。

自分のところの商店街だけ、あるいは、百貨店だけが良くなるということは不可能なんですよ。

水谷 花時計から朝日会館の前を通って大丸の前へ行って、元町へ行って、メリケン波止場へ行って、そして、あとはアロードもやけど、それだけは絶対にレンガにしないとイカンね。

馬島 元町通りのレンガの発想というのはショッピングプロムナードということで進めているということなんです。

小林 一べんに全部レンガという

ことじゃなくても、せめて歩道だけでもね。広いレンガ歩道を先にやってもエエと思う。

川瀬 元町が最初にやったら他でもそういう動きが出てくると思うんですよ。

★国鉄からみると赤い屋根が……

水谷 元町は建物がみんなコンクリートになってしまったんですが屋上は使っていないと思うんですよ。それで屋上を全部請けおって、赤い屋根をバートとつけさせて欲しいですね。両側に赤い屋根が並んだら、そら、綺麗ですよ。急な屋根でね。全部赤瓦をひくんですよ。

永田 そりゃ、良いですね。

水谷 費用も高くないですよ。それに物置にも使えるし、屋根裏部屋にも何にでも使える。レストランにも出来ますよ。

永田 ウン、面白いレストランが出来るかも分らんですなあ。

馬島 確かにエキゾチックという言葉で代表するでしょうねえ。

永田 そういう屋根をつける意味にでもアーケードはとるべきではない。

川瀬 これはとる予定をしないで、それでステンドグラスにしようかと思っているんですよ。けどこれは高くつきますので過渡期



川瀬 倣男さん

水谷 それも綺麗なお嬢さんが下りてきて、どうぞといって、サツとつれて行ってくれる……(笑)。
小林 専門店というのはある程度個性があるけれど、百貨店というのとはみな同じですからね。

としてサイドアーケードとか、シヤレたテントとかをやったら思っているんです。

水谷 ただ、日本は空気が悪いからテントだと汚れるねえ。

小林 雨が降って濡れている元町も良いですよ。しかし、水谷先生の話は面白いですねえ……。

水谷 出来たら各店舗の図面をもらって、やりたいですね。国鉄からみたらすごい迫力ですよ。今は汚ないですからねえ。本当はトア



小林 新二さん

ロードもやるべきだと思うけれど、現実にはまず大丸の西側の通りと港をつなぎたい。あそこだけですね、歩いていて港を身近に感じる場所は……。目の前に船がみえるしねえ。イカリ山もみえるし。素晴らしい雰囲気ですよ。

小林 元町、大丸が良くなるためにはメリケン波止場も良くなるなければ……。

永田 大丸の前にある居留地の碑のところのガス灯のコピーでも良

いから、あれを元町駅からメリケン波止場までズーッと並べればいいんだがねえ。

水谷 そうですね、港と元町とに。小林 本当のガス灯でなくっても形だけのガス灯にしてね。電気でもいいから青光りの光にしたらいいんです。

水谷 今度の場合、声を大にしていうのはみなと広場、メリケン波止場の周りにみなと広場をつくりましょうということですね。

永田 それは肝心なことですね。自分らの周囲は比較的やりやすいんですがね……。

水谷 市当局にもいつてあそここの場所をミラノのオールドポトミたいにしましょうという大キャンペーンを張らなアカンと思います。

安達 メリケン波止場をみんなが安心して行けるような、中突堤的にやってもらいたいですね。

水谷 ポートアイランドでも公園ということをやっておりますが、あれが定着するのは十年あとだと思えます。ちょっと大きすぎてね。そういう意味ではメリケン波止場が一番やりやすい。手近です。

★神戸らしさの演出が必要だ

川瀬 私は神戸へ来て三十年か四十年にしかないけれど、最近

神戸というところは何か中途半端な土地のように思うんだけどどうですか。

永田 何でも新しいものとびつきたり、あきつぽい、そんなところはありますね。私はそれをエエ言葉でいえばフロンティアスピリットに富んでおるといいますのが、「実」はよその泥臭い田舎にとられてるんですね。

川瀬 芝居にしても育たないし、何にしても最初は神戸がやっておりながら、それを中途半端にしてしまうので、みんな大阪へ行ったり、東京へ行ったりしているんじゃないかと、そんな感じを受けますね。市民が本当に最後まで喜んでくれて、自分の郷里だといってまた帰ってくるような、そういうまちづくりをしたら良いと思うのですがねえ。

永田 日本最初のものは神戸に多いです。そういうことがやれるのは非常に良いのですけれど、それをうまく育てることがないし、それに経済的基盤もアカンし、結局、神戸でやりや企業として成り立たんという面があるんじゃないですか。

川瀬 結局、新しいものをつかんできては、よそにとられてしまうんですね。

永田 今までは神戸らしさというものとは自然にあったというか、神

戸が港で外国からの窓口やったという自然的条件とかそんなもので勝手に出来ていた。それが時代が変ってきたら、神戸らしさというものをものごとと演出、強調していかんと段々と薄れていく傾向にあるんじゃないかと思うんですよ。やはりその演出がレンガの道であり、元町なり、大丸周辺のまちづくりで、神戸らしさを強調していかんと駄目な時代に入ってきたのと違うかなあ。



安達 昭三さん

水谷 そうですね。神戸はまちとしては確かに住み良いけれど、やっぱり、神戸へ帰ってきて死のうということになると弱い。フランスのマルセイユなんか、どこへ行ってもやっぱり最後はマルセイユへ帰ってきたいとみんないますよね。やっぱりマルセイユはものすごくまちらしいまちですね。神戸もマルセイユ位のまちになれば非常に良いと思いますよ。川瀬 神戸のまちは良いなあって

いつてもらえるように育てるようにはしないといけませんね。

水谷 最近港というのはどちらかというと公害的要素がものすごく強いんですよ。神戸のまちだけじゃなくてね。要するにどこの港も公害だし、埋め立てをやったらまちは悪くなって全部ダメなんですよ。そういう意味じゃせて神戸ぐらいいでもう一べん港を綺麗にして港のあるまちは魅力のあるまちだということに切り換えないとダメだろうね。今は港をつくったまちは全部悪くなっているんですよ。

安達 神戸は昔から貿易の発祥地であって、ダイエーとか灘生協とかの商法も神戸が発祥地ですね。だから、神戸の人というのはそういうアイディアには非常に秀出ていると思うんです。一応全国をリードしている。月賦販売にしてもそうです。

馬島 そういうのが育つというのは、住民に合理性が強いんですね。星電社しかり。

永田 神戸は非常に喰いものはうまいし、気候も良いし、非常に住み良い。そやから発展性というか、あきつぽいというか、それが神戸人の特性でもあるんですね。どないかなるわいというねえ：

：。私は、東京へ出れば売り上げが三倍にも四倍にもなるといわれ

ても、神戸を離れたら神戸らしさというものはなくなるし、いつまでも神戸にいたいし、死にたいと思っておるんです。

★神戸ファッションは専門店から

安達 この間から元町でファッションシテイのアンケートをとっているのですが、みんなファッションとは服飾だと思っているんですよ。服飾のファッションシテイを目指しているんじゃないというのをもうちょっととマスコミ全部を動かしてPRしてやらんとアカンのやないかと……。

水谷 うちの研究所でも神戸市のファッション産業の調査をやっているんですが、殆んどファッションという衣料品だと思っているわけです。それに家具屋さんとかお菓子屋さんが、うちはファッションと関係ありませんというわけです。ですから、本当にファッション産業というものの概念をもうちょっとトータルにおさえないとアカンですよ。

安達 もつとつとPRせんとなね。三千通の葉書をみたのですけど、その殆んどが服飾やと思っているんですよ。

永田 ファッションというものはよそから、特に官庁からファッションファッションといわれて出来

るもんやない。やはり地についたもんです。神戸ファッションをつくるのは専門店ですよ。百貨店はそれについてきていただく……。協賛の形ですよ。

小林 一つの型をズツと守っているセンスもファッションだと思っ

水谷 そうです。それがファッ

小林 アンティックもファッ

水谷 まったくその通りなんです

小林 だから綺麗な洋服を着て、パツパツとするファッションではない神戸ファッション、神戸らしいセンスでクラシックをモダンにすることが大切ですね。

永田 神戸ファッションといわずに神戸らしさといった方が良いと思うんですがね。

水谷 成程、神戸らしさねえ。あの意味ではライフデザイン、生活産業ですよ。それを基本にしないとアカンのですよ。

安達 だから、そういうPRをマスコミに徹底してやってもらいたいと……。

水谷 業界の調査をこの間もやったんですが殆んどが自分でやるのじゃなくって神戸市に頼っているんですね。これは気になりますね。

永田 神戸の商店街の運営をやっていると思うのは、まかしといたら何んかエエことやってくれるやろ、間違えたことせえへんやろと非協力やないんですが、無関心なんです。あの連中にやらしてお願いしたら何かやるだろうとね……。

馬島 神戸ファッションというのが生まれるのは神戸のまちの雰囲気からですね。まちづくりと平行をして生まれてくるわけですね。

小林 神戸市がファッションをうたうということはおかしいですね。すでに出来ているんですよ。

永田 専門店レベルの努力が今まで積み重ねられてきていて、それが神戸ファッションなんです、それは身についているものなんです、努力するとか、無理に肩を怒らさんでも普通に普段やっていることが神戸らしさであり、自然にじみ出たもんなのですよ。

★頭張ろうノ我ら元町・大丸勢

目の特色を出すために何か考えようということで、アーケードの鉄の柱を彫刻の柱にするといったことを今考えています。

小林 私としては川瀬さんがおっしゃった方向でやって行きたいと思っています。

馬島 京都や大阪へお客さんの流れることのないように神戸らしさというものに魅力を感じてもらおうような一体化したショッピング街というものになって行くように力を入れたいと思っています。その基本となるのは神戸のまちの山あり、海ありという自然の環境で、その中から生まれてきた神戸らしさが出てくるような道にし、店にしようということですね。

永田 専門店としては今まで通りにやって行けば良いし、いわゆる、神戸のトラディショナルな精神を貫いて行くということが神戸ファッションを維持し、発展させることだと思います。それには、元町、大丸を核とした一つの神戸ファッションの広場というか、市民のコミュニティの広場をつくるのが一番肝心なことだと思います。

水谷 元町のレンガ歩道は山と海、東と西をレンガでつなぐ一つの拠点とならないといけないですね。

安達 ひとつこらあたりで三丁

(於 竹葉亭)

神戸文化ホール 秋のプログラム

バルカンの息吹きを伝える
香り豊かな民族舞踊

ユーゴスラビア国立

コロ舞踊団

ブリリアントなステージ
聴くひとびとの心をとらえる詩人のタッチ
アレクシス・ワイセンベルク
リサイタル



10月14日(日) 6:30P.M.開演(6:00P.M.開場)
神戸文化ホール・大ホール
入場料〔A〕2500円〔B〕2000円〔C〕1500円〔D〕1000円

〔内容〕

第1部

東セルビアのワラキアの踊り／スロヴェニア地方の踊り
ボスニア地方に古くから伝わる無伴奏の踊り・他

第2部

クロアチア地方の踊り「妻の意思」
ヴォイヴォディナ地方のジプシーの踊り・他
ドブリボエ・ブトニック団長と40名の舞踊家・12名のオーケストラ



11月9日(金) 6:30P.M.開演(6:00P.M.開場)
神戸文化ホール・大ホール

入場料〔A〕3000円〔B〕2500円〔C〕2000円〔D〕1500円

〔曲目〕●ショパンプログラム●

幻想ポロネーズ／英雄ポロネーズ
ソナタ第3番ロ短調作品58
ノクターン集

★前売りはいずれも8月20日より市内各プレイガイドにて発売中★

- 神戸文化ホール(351-3535) ●国際会館(251-8161) ●神戸新聞会館(231-4801) ●日本楽器(321-1191)
- 大丸神戸店(331-8121) ●垂水〔タルセン内〕(706-4821)

神戸文化ホール

神戸市生田区楠町4丁目26 ☎078-351-3535



青谷川公園そばのクスノキ



神前町春日神社“神前の大楠木”

★終末論にもめげず、はてしなく続く未来と科学技術の進歩を信ずるならば、街の緑化の如きは実に簡単なことです。品種改良の結果や化学薬品（超発根ホルモン、超成長促進ホルモン、超肥料など）の助けにより、金属や石にでも生える植物があったり、熱湯をかけて3分待てば、数10mにも達するお化けの如き樹木が出来あがり、街中をジャングルのように出来るかもしれません。もしそのような事が出来る時が来れば、人間もきっとお化けのようなものがあるでしょう。こうなるともはや知恵を働かす余地がありません。そこで我々が生きている間ぐらいでの未来について考えてゆきたいと思います。

★今までの緑化は、既成市街地の条件の中で緑の量を増やしていくことでした。それは、公害に強い樹木を大量に植えていったことから、わかります。今後は、街自体をも変えることが緑化であるとの立場をとる必要があると思います。また量的・質的両面からの拡大をはかる必要があります。量的拡大のためにも知恵は必要ですが、質的拡大のために知恵を働せることがより大切です。その方法としては、感覚的に訴えることにより、緑の量の不足を補っていくことです。たとえば、周囲から見通しの効くところに大木を植えること。お庭のブロック塀を生垣にするだけでも随分効果はあると思います。眺めるだけの樹木の下にベンチを置くことだけでもその持つ意味は大きく変わって来るものです。

（畠山道之）

神戸のアーバンデザイン

⑦8

《神戸のみどり》

街のみどりをふやす知恵

未来

水谷順介＋チーム・UR

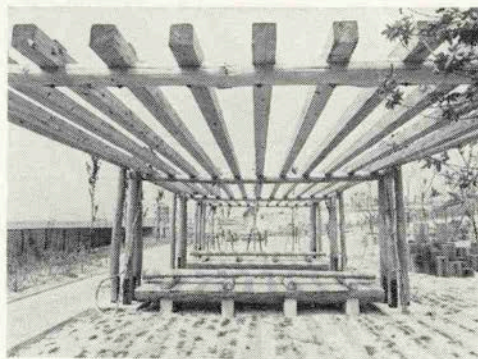
★これは、一般的にいて、住宅そのものではありません。しかし、屋根のない建築、と理解していただきたいのです。

★材料は、すべて木——杉の丸太が中心になっています。木の豊かさをもった建築を造ることは、最近、非常に困難になっていますがここでは、あえて、それをテーマとして設計しました。3本の杉丸太を組合せた柱の足もとが、丸い丸太を割ったベンチをおいた広間です。藤がのびて、ひろがれば、緑の屋根と、藤の房のぶら下る天井が出来上るしくみです。

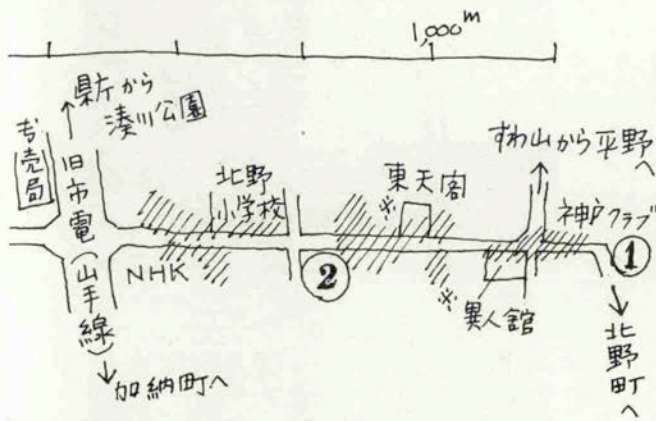
★この木のすまいを、緑の庭が囲んでいます。お庭へのアプローチは、レンガ敷です。住宅地の公園ですが、オープンなスペースのなかへ適当に樹木と遊具を配置して、といった順序でまとめないで、大きなお庭の一軒のお屋敷が公園として解放された、という思考をとりました。お屋敷跡には、そこに住んでいた人の生活観と歴史がただよっていて、なんとなく物語性が感じられるものです。人間くささの欠除した公園、というつまらなさを、解消したかったのです。

★この丸太のベンチいっぱいになって、いろいろな家族、また数軒の家族の語らいがはじまることを、楽しみにしています。この場所が、この住宅地で、一番住みごちがよいと……。

(水谷順介)



(三)



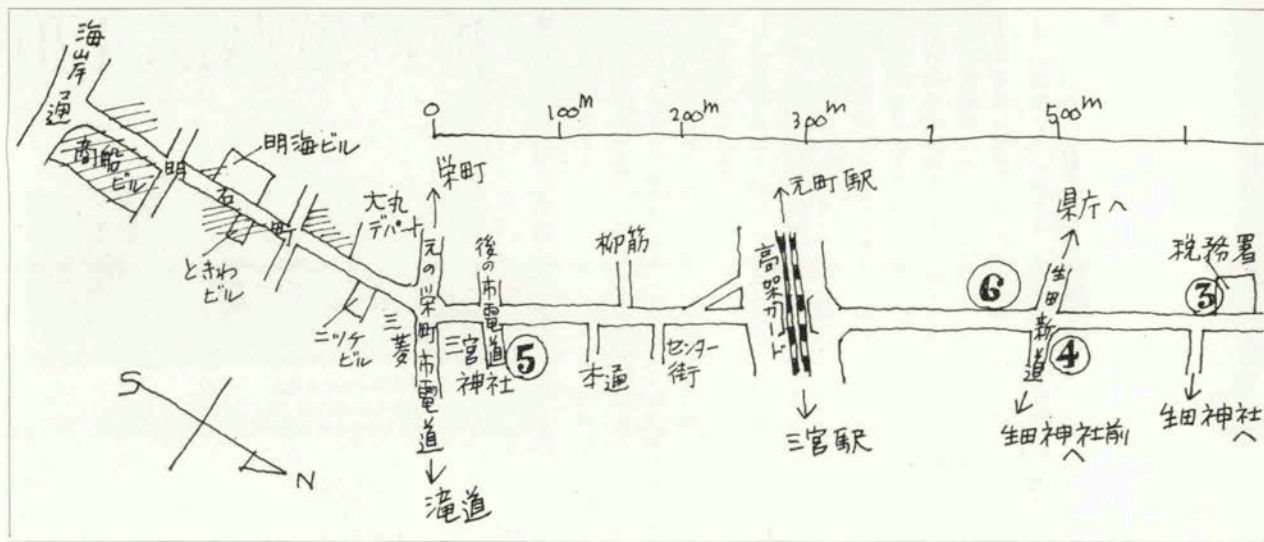
//// 印は昔のおもかげあり

- ①赤いハーフティンバーの尖塔のあるトアホテルがあった。
- ②旧市電道までの間は静かな住宅地で※印には屋敷がならび、その間に古道具屋(帰国外人の処分品)、家具屋 などがあった(両側とも)。
- ③この辺に教会(木造?)があった。小松益喜画伯の油絵に描かれているはず。
- ④記憶に間違いがなければ赤レンガ腰、铸铁柵(ゲリル)の中に植込みがあった。
- ⑤にぎやかな三宮神社境内。三宮町の古い地図をつくる話をきいているので期待している。
- ⑥高架から市電道までの両側には大体二階建の西洋館で入口に階段のあるようなベネカリー、洋服屋、貴金属商、靴屋、食料雑貨店などがあって日本で一番ハイカラなところということで、京都辺りからも一日がかりでショッピングに來ていた。

★トアロード今、昔案内

戦争中は東亜道路といわされていたというのは、ウガチすきかしら。兎に角大丸の市電を北に渡ったらつきあたりには赤いハーフティンバーの尖塔をもったトアホテルが緑に映えて美しかった。それが火事で焼けて本当に悲しくて、焼跡へ残骸を見に行ったことを思い出す。たとえ今残っていてもあの車の洪水ではつきあたるまで見えないだろう。その代りに目立たなくともよいようなNHKが立ちふさがった感じである。それでもまだ山手旧市電道から上には東天閣やその他若干のいわゆる異人館が残っているし、戦後建った家の中にも実に気をつかって景観をまもっていて下さる人達があるのには頭が下る。NHKやその他マンシヨンの設計者もよく見てまわってさらにしてもらいたかった。しかしもう手おくれになってしまった。そうして道路拡張の暴力はトアロード最後の砦、山本通の角の異人館のすぐ南で手をふりあげてとまっている。古い美しい街並が新しい気ちがいにじみた景観にとつてかわらなくてはならないものか？ 景観が金儲けるべきだとするならば、望みなきにあらず。市民と建築技術者は一緒になって景観を整備しすぐれた環境を創造してゆく時だと思う。

さて、手旧市電道を南へ渡ると昔は今以上にショッ
ピングを楽しむ街並だった。両側のビルが高くなくてゆ
くのは土地柄なのだろうが、ここでもこれらのビルの設
計者が街並を考えながら造ってほしいと思うのはここを
楽しむ人達誰しもだと思う。そうして車の問題も何とか
したい。そうすると昔は楽しかったなどとグチは出なく



なる。思い出してみると今の税務署辺りに木造の教会があったし、生田新道との東北角は柵の中に植込みがあったのが印象に残っている。喫茶店だけでなく景観の中にも思いが必要なのである。

いったいたのが、今の元町駅の場所から現在の処へ三宮駅が移つて以来呼び名も東の方へ移つたようである。そこからフラワールード一帯は滝道といつていた。その三宮は三宮神社があつてのことで、広い境内は盛り場といふのか映画館、芝居小屋、寄席を中心に娯楽場、飲食店がづらなつて、市民のオアシスであつた。トアロードから三宮神社の入口に公衆便所があつてその横手に二銭のアンマキ屋があつた。実にアマかつた。もうここまで来てしまつたらトアロードとは一寸雰囲気が違うのだが、村野藤吾設計の上品な大丸のファサードがトアロードのしめくくりをしてくれた。今はセンター街が昔の元町の代りになったのでセンター街の延長のような気がする。今もそうだが、昔からこの界限になると街並の景観といふよりも、景観を背景に常打の演出のような感じのするものだったが、歩道上のアーケードなど出来てしまつて景観の楽しみも少なくなった。

山から海岸までは今も昔も神戸らしいトアロードの1500米である。この美しい街並はわずか百年そこそこで先輩達によって造られたものである。いつまでも美しい景観をのこしておきたいものだ。

● 新建兵庫ブロック連絡先 ●

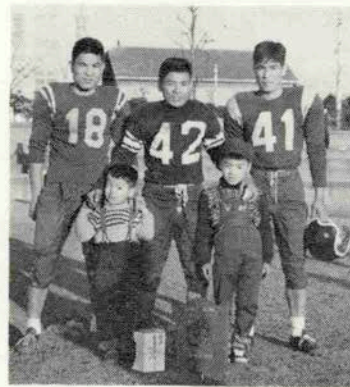
神戸遊戯誌 120



神戸ボウル記念写真

〈前列右端牧田隆（21番）、右から3人目井上透（54番）、4人目米田満（42番）、左端辻光行（25番）〉

〈後列右から2人目山崎正、4人目三浦清、7人目中村喜一（10番）、11人目木谷直行（20番）、左から3人目米田正勝（52番）〉



米田三兄弟

〈中央、米田満（42番）長兄、左 米田豊（18番）次兄、右 米田正勝（41番）弟〉

★戦後復興期に活躍の諸選手の顔ぶれ

前回まででアメリカン・フットボールのわが国における発達の概略を述べたわけだが、来年でいよいよ四十年を迎えることになる。そこで今回はこれにちなんで神戸および兵庫県下の今日までの著名フットボール選手について拾ってみよう。

まず戦中派は三浦清と佐藤匡哉氏（以下敬称略）の両選手である。三浦選手は神戸二中（現在兵庫高校）から同志社大へ。二中ではラグビー部で、同大ではアメリカン・フットボール部の創設から参加して、常にスピードのある名ランナーとして鳴らし、キャプテンとなる。昭和十八年卒業後現在はいむろん現役から離れて神戸マリン商事の社長職にあるが、関西フットボール協会副会長をつとめ同界の発展に尽くしている。佐藤は同じく神戸二中から慶応大へ。同チームの興隆に努力した。昭和十八年卒、現在は全日不動産興信所の企画部長である。戦後派のトップは山崎正。やはり神戸二中から関大へ。昭和二三年卒だが、中学、大学を通じて物資の乏しい時代にくよくよとファイターとして活躍、主将となる。神戸港湾協

会勤務中。つづいて続々と戦後派遣選手が登場するが、兵庫高校の卒業生が圧倒的に多いのはさすが伝統にねざすところであろう。岡武（神戸二中——同大）は昭和二五年卒だが、高校時代はラグビーの名手で、同大でも重量のあるバックとして勇名をとどろかせ、卒業後大阪警視庁のフットボールチーム結成に参加、自分も大阪警視庁都島警察署に勤務、同チームのために尽くしている。米田満（神戸二中——関学大、昭和二六年卒）については先にも書いたが、彼ほどフットボール界のために涙ぐましい努力をつづけている人も少ない。

彼は高校時代は軍楽隊でドラムをたたいていたが、関学で初めてスポーツに触れ、それがフットボールであったという縁で以後彼の一生を支配するほどの対象となる。関学アメリカン・フットボール部の再興隆に全情熱を傾け、他選手と共に一丸となって努力したかいあって昭和二四年に初めて関西一位、同時に関東の雄慶応を破って全国一の偉業を立てる。彼自身の告白を聞くと、現役時代どの試合に出場しても一番小さかったが、気遣いのように努力したおかげで最後の年には主将となった。

アメリカン・フットボール〈4〉

青木 重雄

卒業後もフットボールのやれる職業をと考えて神戸新聞運動部にはいり、一年して運動部総顧問となったが、「それだけ好きなら母校に戻って来い」と母校へ体育教師として呼び戻されて、高校教諭を三年勤めたのち現在は関学大体育主事。同校卒業後も約十五年間メシより好きなフットボールのために尽くしたこの人の功績は抜群といえる。今日全体に斜陽化といわれる関学体育界の中にあってアメリカン・フットボール部だけが、ひとりずば抜けた強みを保持しているのは現在も総監督をつとめている米田の指導の賜物といつてよからう。昭和二六年卒業式の日に関学スポーツ賞を関学先輩の竹中郁氏の手からもらったのも、昭和三五年関学スポーツ指導者賞を、同四年神戸新聞平和賞体育賞を受けたのも当然の授賞といえる。他方チームとしては高等部が関学スポーツ賞、神戸新聞平和賞、デイリースポーツのホワイトベアスポーツ賞、大学が関学スポーツ賞を受けている。

堂本武男（神戸二中——関大、昭和二十七年卒、主将）は関大のクォーターバックであり、猛将として他チームから恐れられたが、卒業後招かれて大阪警視庁チームにはいったが、現在は墨田産業へ勤務中。牧田隆（兵庫高——関学、昭和三十年卒）は小軀ながらスピードランナーとして活躍後、現在ニューヨークで東洋ペアリング代理店を経営している。井上透（兵庫高——関大、昭和三年卒、主将）はバックで活躍、卒業後スポーツニッポン新聞社につとめている。このように神戸二中（兵庫高）から選手が輩出しているのは、神二中の蜜カラ・カラーが戦後復活期のフットボールにピッタリだったからかもしれない。この他では星陵高から数名のフットボール選手が出ている。同校チームを創設したのも米田のすすめによるものでこの県下両チームを神戸ボウルで結びつけながら育成していった。選手では米田豊（米田満の弟、星陵高——関学、昭和三十年卒、主将）が昭和二八、二九年の全国二制覇をやりとげた。株式会社山上商店の専務をしている。辻光行（関学大、昭和三二年卒、

現在株式会社サン・サカエ代表取締役）はハーフバックで、米田正勝（米田満の弟、関学、昭和三六年卒、川鉄大阪営業所）は高校時代はクォーターバックで（全国第二位となる）関学ではパッサートとして、中村善一（関大、昭和三二年卒、神戸日産モーター）はエンド・フアイターとしてそれぞれ鳴らした。その他関学高からは木谷直行（関大主将、昭和三二年卒、三菱商事東京本社）は高校、大学の七年間全国優勝をつづけ、その中心となったが、プレーヤーとしては今日まで日本一の名ガードといわれている。高校、大学時代学力最優秀で卒業、学問とスポーツを両立させた人物としても定評がある。勝田録二（関学大、昭和三九年卒、恵化学工業、元神戸市長・勝田銀次郎氏の孫）は「フットボールの虫」と呼ばれ、強肩、俊足の名パッサートとして活躍。広瀬慶次郎（関学大、昭和四六年卒）は最近の名クォーターバックで全国制覇の主力となっているが、昨夏フットボールコーチの勉強をするため渡米中。武田建（関学大、昭和九年卒、クォーターバック、関学大社会学部教授）は昭和四七年から関学チームの監督となったが、アメリカ留学中からフットボールの研究をつづけ、日本のフットボールコーチの第一人者である。

このほか甲陽中（現在甲陽学院）から関学大へ進んで昭和一六年卒業の戦前派の井床有雄は関学チーム創設の功労者で、初代キャプテンでもあった。このようにわが国のアメリカンフットボールの興隆に尽くした神戸市および県下選手の功績は数えあげるときりがないほど。わけても神戸二中と関学大の偉業は今後とも不滅のものといっても言い過ぎではあるまい。また、米田三兄弟の活躍も珍しく、その功績は特筆大書されよう。

（昭和四八・七・二七）

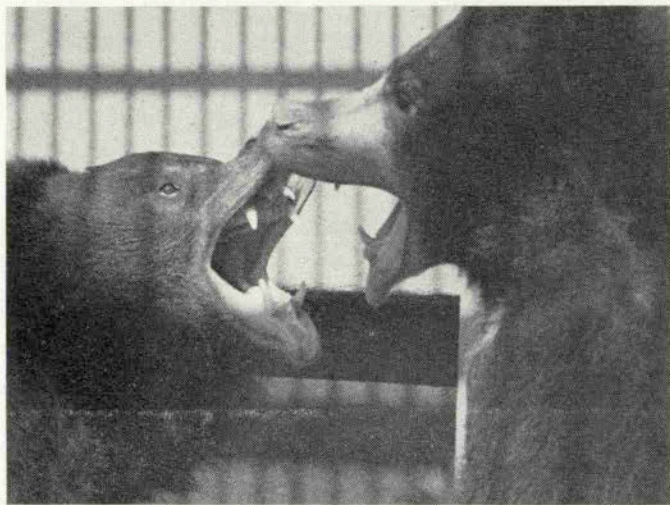


動物園飼育日記 — 88 — 亀井一成



ないしょ話シリーズ〈9〉 クマとアンパン





ある日私はクマ舎前で不思議なことに眼を止めた……

わざわざ人止柵をのりこえ、クマやライオンのオりに近づき、そのうえ鉄格子に手を入れてまで咬みつかれる「お客さま」がいらっしゃるばかりに、動物園では鉄格子のオりにさらに細かい金網を重ね張りしてある。もっともこの格子式檻も、広い放養式にすれば、まるでモチ焼き網を通してのこの動物園見学も、ずっと快適にさせるはずで、またいくらなんでも放養式の堀の中にまで入るお方もまずいなくなるのだらう。ところで、将来のことはさておき、ともかく少しでも安全でしかも自然さをもたせようと王子動物園では必ず動物舎の周囲や人止柵の中には、ユツカ、ツゲ、カイヅカ、ヒラドなどを植え、芝生さえはってヒトの入るのを防いでいる。つまり植木のバリケードみたいなものだ。

ある日、その人止柵の植えこみにまぎれ育った一本の

雑草が、ふと私に思いがけないことを気づかせたのである。草の名はなんでもいい、ともかく、背が高くなる草でさえあればよい。クマ舎前に行つて不思議なことが眼にとまったのだ。その長い草だけが風もないのにゆりゆり前後にゆれていたのである。それにゆれる少し前にはヒューとフエに似た音も聞えた。その動きが「フエ」の音なる回数につれてゆれは大きくなる。そしてリズムカルに動く。なんだろう。私は横あいからその草を動かす「下手人」を確めておどろいた。

なんとそれは至って喰いしん坊、ナマケグマの主だった。それがまた、サル知恵ならぬクマ知恵というのか、ご存知雑食性のクマゴローは毎日のようにのびる一本の雑草に食欲をさそわれ、手爪さえ出さないよう張つてある金網が、彼の思考性をかきたてたのだらう。ふっと吹きつけ「草をゆすり、はね返ってくる」ところを長い舌で巻きつけ食べようという寸法だったのである。

そこで私は長い竹ヒゴの先に好物のアンパンを突きさし、吹けばゆらり曲がるようにしては、ニホングマ、ヒマヤグマにも、それにマントヒヒやベニガオザル、さらにオランウータンやチンパンジーなどにも同じテストを仕掛けてみたら、なるほど、おのおの愉快な知恵者ぶりを見せ、私の興味は際限なく広がってきたのである。

△アンパンテストの成績▽

ニホングマ、ヒマヤグマは金網越しに見えるアンパンの臭いにかきたてられ、ただ鉤づめを逆だて、ヨダレを流し右往左往、しまいいにはオスとメスがケンカをやりだす仕末、結局どうしようもなかった。

次にこの稿主役のナマケグマは、ためらいもなく雑草での体験を応用しはじめ、アンパンめがけてより一層イキを吹きつけ、リズムにのってはね返ってくるところをひょいと、ツメで引っかけ、ものの見事に喰ってしまったのだ。

そこで少しはサル知恵を拝見したいものだと、マントヒヒやベニガオザルにもテストしてみたところ、母ザル、

子ザル、オヤジザルまでが先を争って手を出し引きこもうとするが空振りばかり、しまいには、取れないばかりにかんしゃくを起こしオヤジザルがメスや子ザルまでにあたりちらすだけだった。

さて、類人猿ともなるとさすがであった。はじめはオランウータンから。手のとどかないことは目測で充分判断して、あせらず、吹きもせず。のんびり風の出るのを待っているふうにも見えたが、私のいない方がよいのではと隠れて見ていたら、手にしたバナナの皮やイモのヘタを手を持ち網の目から突き出しはじめた。つまり針金でもあればそくさに道具として手の延長に使うだけの知恵を見せていたのである。



ナマケグマのクマ知恵、バカにしたものではない

さらに隣りのチンパンジー姉弟にも試してみたところ、とたんにイモやニンジンのお残りを手につかみエイノとアンパンめがけて投げつけ、はね動くパンをつかまえようと寸法だったが、太い指は金網から少しも出ないとおつてとたんに、「早く取れ！」と猛然なもので、すごい拍手で、私を道具に使ってしまったのである。さて、何故ナマケグマがこのような「イキ吹き行為」を見せたのだろうか。

ナマケグマは(英名Sloth Bear)インドやセイロンに住む熱帯産であり大きなクマではない。食性はクマ特有の雑食なのだが、他のクマとちがって食虫性が至って強く、野生のミツバチの巣やシロアリの巣を手でこわしながら、他のクマより長い口先で例のごとく強くイキを吹きつけては、ゴミを吹き払ってから蜜やサナギを食べるという習性をもっている。つまり動物園でもその吹きつけ「食事法」を見せていたのだった。

ところでこの吹きつけ食事法を見せるのはナマケグマの他にゾウがまた、より優れた鼻先の知恵をもっているのである。竹グシに刺さなくとも、アンパンをとどかない鼻先き置いてみたら、二度は、まるで電気掃除機。一気に吸いつけようと努力している。しかしダメだと分れば、こんどは逆に吹きとばす。それは、まるで壁に当たってはね返ってくるアンパンを予想しているようで、まさに「押してもだめなら、引いてみな」の応用なのである。

〈神戸王子動物園学芸員／写真も〉

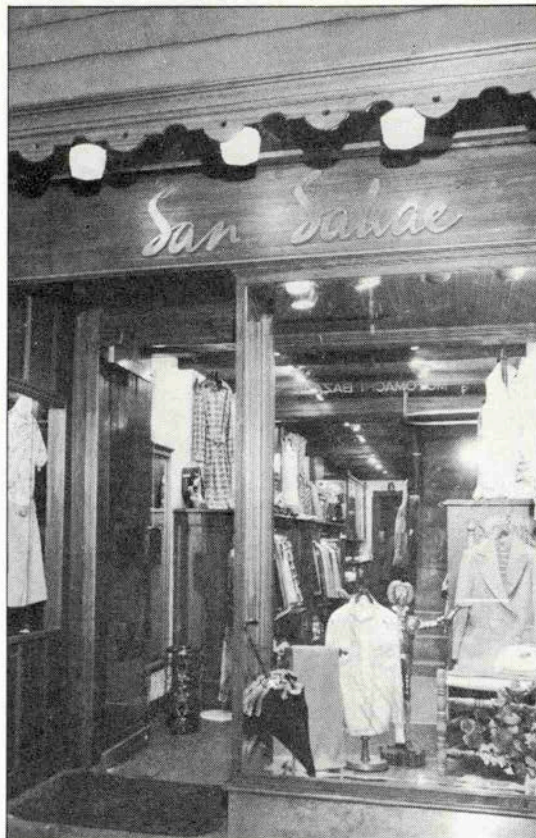


MEN'S APPAREL

San Sakae

MOTOMACHI-2

TEL 331-5121



Ladies'

San Sakae

MOTOMACHI-1

TEL 331-7885